

2024(令和6)年度埼玉県・オハイオ州スカラシップ

〈語学・大学留学コース〉

“Exchange”：4月報告レポート

2024(令和6)年度奨学生 福澤 心結

こんにちは。4月のレポートです。暑い日があったり、寒い日があったりと寒暖差が激しい季節ですが、日没時刻は日に日に遅くなっており、20時になってもまだ明るいです。フィンドレーの広い空の黄昏時が美しく、思わず写真を撮ってしまいます。

今月のレポートでは、4月に参加したいいくつかのイベントについて紹介したいと思います。



最初に紹介したいのは、Bowling Green State University(ボウリング・グリーン州立大学)で開催された「Cherry Blossom Festival」です。このイベントは、同大学の Japanese Club と Asian Studies Program によって主催され、日本文化に関心のある方や日本にルーツを持つ方々が多く集まっていました。会場では、日本の伝統文化を体験できる様々なブースやパフォーマンスが用意されていました。たとえば、和太鼓の演奏やソーラン節の力強い踊りが披露されていました。また、着物の着付け体験ブースもあり、実際に日本の衣装を身につけることができる貴重な機会となっていました。アメリカでこれほど多くの方々が日本文化に関心を持ち、楽しんでいる様子を目の当たりにし、とても嬉しく感じました。また、在デトロイト日本国総領事館の総領事とお会いすることができ、会話の後に記念写真を撮らせていただきました。また、同行されていた専門調査員の望月さんという方ともお話しする機会がありました。驚くことに、望月さんは埼玉大学の大学院生であることがわかり、同じ大学の先輩が遠くアメリカで活躍している姿にいい刺激を受けました。

このイベントでは、2月のレポートで少し触れた「元気キッズ」という授業に参加している子どもたちと一緒に、“幸せなら手をたたこう”の英語・日本語バージョンを歌いました。元気キッズという授業では、週に1回、アメリカの小学生たちと一緒に日本語を学んでいます。授業内容やアクティビティーを考えるのは少し大変でしたが、自分が教えたことを子どもたちが習得し、私に日本語を披露してくれた瞬間がとても嬉しく、やりがいを感じました。

また、フィンドレー大学には日本語を学んでいる学生も多く彼らから日本語の質問を受けたり、会話練習をする機会もあります。母語は感覚的に使っている部分が多いため、「助詞」や「助数詞」について「なぜそうなるのか？」と問われると、すぐに答えられないこと

もあります。「話せること」と「教えること」は必ずしも同じではないと実感し、言語教育の難しさを感じました。



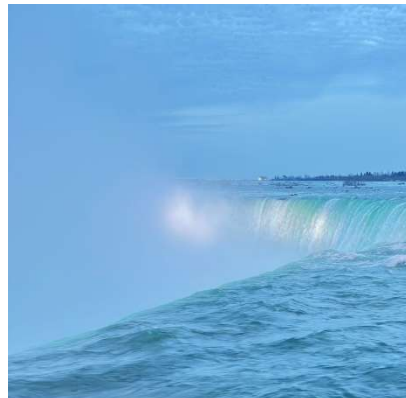
次に紹介させていただくのは、「International Night」です。このイベントでは、さまざまな国からの留学生が、自国の料理を提供するフードブースや文化紹介の展示を行い、またパフォーマンスも披露しました。私たち日本人と日本語学習者は、提供するブースや、日本のアイドルダンスを披露しました。私はダンスが得意ではないのですが、ダンス経験者である福井県出身の留学生、若原さんのご指導のおかげで、なんとか踊ることができました。

本番では予想以上に多くの観客が集まり、緊張しましたが、ダンス中には大きな歓声も上がり、あっという間にステージが終わりました。ダンスや料理を通して、少しでも多くの方々に日本への興味を持っていただけたなら嬉しく思います。また、他国の学生伝統衣装での踊りや、多国籍料理の試食などを通じて、異文化に触れることができ、とても楽しく貴重な経験となりました。

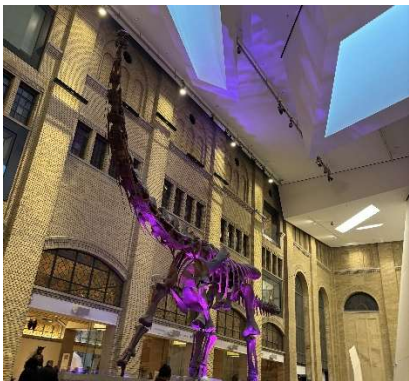


フィンドレー大学は、「信仰に根ざした質の高い教育を地域社会に提供すること」を使命として、City of Findlay（フィンドレー市）と Churches of God, General Conference によって設立された大学です。そのため、キリスト教において重要な祝日であるイースター（復活祭）には Easter Break があります。4月18日（金）から21日（月）までの4日間は連休となり、その期間を利用して、ナイアガラ滝を見に行き、さらにカナダのトロントで観光しました。政治の関係で、出国や再入国の手続きが少し複雑で、予測が難しい状況だったため、友人からは心配されましたが、無事にフィンドレーに戻れて安心しました。ナイアガラ滝

は想像を遥かに超える壮大さで、滝の渦に吸い込まれそうなほどの迫力がありました。アメリカ側とカナダ側、両方から滝を見ることができ、夜にはライトアップされ、全く違う雰囲気の中で滝を楽しむことができました。



トロントでは、St. Lawrence Market での買い物を楽しみ、またロイヤル・オンタリオ博物館（Royal Ontario Museum）を訪れました。この博物館はカナダ最大級の規模を誇り、1800 万点以上の展示品が収蔵されています。さらに、日曜日には現地の教会に訪れました。近くにトロント大学があるためか、多くの学生が集まっており、歌を歌ったり、聖書の解説を聞いたりしました。その後、温かい飲み物やパンが振る舞われ、キリスト教が日常生活に根付いている様子を感じることができました。イースターを祝うのは今回が初めてであり、宗教文化への理解を深める貴重な体験となりました。フィンドレーからカナダまで片道6時間にわたるドライブをしてくれた友人には、感謝の気持ちでいっぱいです。



参考文献

Royal Ontario Museum (2024 年 5 月 2 日アクセス)『About ROM』<https://www.rom.on.ca/>
フィンドレー大学 (2024 年 5 月 2 日アクセス)『University of Findlay 公式サイト』
<https://www.findlay.edu/>